

気象研究ノート第210号「2003年日本の冷夏」発刊のお知らせ

気象研究ノート編集委員会

2003年の日本は1993年以来10年ぶりの顕著な冷夏となりました。南西諸島を除く全国的な低温と日照不足により、農業を主に各種の産業が大きな被害を受けました。日本の夏の天候は、日本の社会に大きな影響を与えます。

本書は、2003年に起こった日本の冷夏を対象に、最新の研究成果を大きく3つの部分に分けてまとめました。

第I部は、2003年夏の気象と海洋の状況に関する観測的研究による実態の把握を行っています。

第II部は、日本の夏の天候に影響を与える様々な要因を探っています。季節の時間スケールでは、日本付近以外の遠く離れた熱帯や高緯度地域から様々な情報や信号が、日本まで伝わってきます。日本の夏の天候は、このような様々な外的な要因に支配されています。この個々の要因に関する詳細な研究成果を紹介しています。

第III部は、日本の夏の天候の予測可能性について論じています。日本の夏の天候には、複雑に絡み合った様々な要因が影響を与えています。しかし、どの要因がどの程度寄与しているかを分離して定量的に特定することは容易ではありません。そのため、日本の夏の天候の予測は容易ではありません。

本書は、日本の天候の変動のメカニズムの解明、さらに季節予報の精度向上に役立つと期待されます。

【目次】

はじめに

第I部 大気と海洋の状況

第1章 天候の特徴

第2章 大気大循環の特徴

第3章 日本近海の海水温の状況

第II部 何が日本の夏を決めるか？

第4章 2種類のオホーツク海高気圧と2003年冷夏

第5章 オホーツク海高気圧の成因と予測への鍵

第6章 梅雨前線の明瞭・不明瞭の大規模場の特徴

第7章 2003年冷夏の解析～2002/03エルニーニョ現象後の夏～

第8章 エルニーニョ終息後の西部北太平洋モンスーンと日本の天候の特徴

第9章 北日本における夏季天候の周期変動と2003年冷夏

第10章 ダイポールモードと日本の夏

第11章 北極振動と日本の夏

第12章 冬季北大西洋振動 (NAO) とオホーツク海高気圧の関係

第13章 欧州熱波と日本の冷夏2003

第III部 日本の夏の天候を予測する

第14章 気象庁現業季節予報モデルによる2003年夏の予報

第15章 大気大循環モデルによる夏の東アジア・モンスーンの再現性

第16章 日本の夏季の異常気象に関連する遠隔伝播パターンの抽出とそのインパクト

第17章 冷夏の予測可能性

【編集】 楠 昌司

199ページ, 2005年11月15日発行

【価格】 会員: 2,400円, 会員外: 3,700円